

令和4年9月12日14時00分
資料配布 和歌山河川国道事務所

紀の川水系の渇水への備えを強化します！ ～紀の川水系渇水対応タイムラインの試行運用を開始～

紀の川水系において、渇水対応タイムラインを作成し、本日より試行運用を始めます。

○紀の川水系では過去に取水制限を伴う渇水を経験しており、さらに、気候変動等の影響により渇水リスクが高まっています。そのため危機的な渇水等への対応として、関係機関が連携し、「紀の川水系渇水対応タイムライン」を作成しました。

○紀の川水系渇水対応タイムラインとは自治体、利水者、ダム管理者、河川管理者等が各ダム(大滝・猿谷・大迫・津風呂)の貯水状況に応じて行う渇水への対策を時系列に示した行動計画です。

○危機的な渇水が発生した場合でも、関係機関連携のもと、このタイムラインに沿って行動し、迅速・効率的に渇水対応を行うことにより、渇水被害の軽減を目指します。

渇水対応タイムラインの詳細については、国土交通省 HP を参照
～「渇水対応タイムライン作成のためのガイドライン(初版)」をとりまとめました～
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_fr2_000024.html





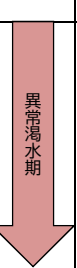
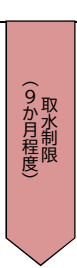
<取 扱 い> —

<配布場所> 和歌山県政記者クラブ・和歌山県地方新聞記者クラブ・和歌山県政放送記者クラブ・奈良県政記者クラブ・五條市政記者クラブ

<問い合わせ先> 国土交通省近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所

副所長 ^{いまい さとる}
 今井 智
 電話073-424-2471(代表)
河川占用調整課長 ^{くぼ のりお}
 久保 徳生
 電話 073-402-0268(直通)

紀の川水系渇水対応タイムライン

大滝ダム貯水率		3ダム(猿谷・大迫・津風呂) 合計貯水率		状況	制限と 目安日数	河川管理者・ダム管理者 (国交省・農水省・県)	自治体 (県・市町)	水利利用者 (土地改良区・水道局 等)	一般家庭・事業者 等	
第1期 かんがい期 4/1 ～8/15	第2期 かんがい期 8/16 ～9/30	第1期 かんがい期 4/1 ～8/15	第2期 かんがい期 8/16 ～9/30							
60% ▽程度	50% ▽程度	60% ▽程度	50% ▽程度			適正な河川管理	適正な施設管理		節水	
						◆適正な利水補給、河川環境の確認 ◆不法投棄・水質異常に関する巡視等	◆庁舎等の水回りの整備・点検	◆取水・送配水施設の整備・点検		
						情報収集				
貯水率が低下傾向にあり、水利利用を自主的に制限している状況						◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集、対策の調整 ◆渇水対策体制の確立 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の開催・参加(適宜)および関係機関との情報連絡	情報収集、体制構築	◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の参加(適宜)および関係機関との情報連絡 ◆自治体情報の確認	◆自治体情報の確認 ◆一般家庭・事業所での節水推進	
						適正な河川管理	◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の参加(適宜)および関係機関との情報連絡			◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の参加(適宜)および関係機関との情報連絡 ◆自治体情報の確認
						◆適正な利水補給、河川環境の確認				
50% ▽程度	40% ▽程度	50% ▽程度	40% ▽程度			◆ダム等の水源情報の発信 ◆節水キャンペーン	◆節水広報、節水呼びかけ等 ◆節水キャンペーン	◆水道用水等使用者に対する節水要請、節水広報 ◆自主節水強化の検討 ◆受水市町等への協力要請(水道用水供給) ◆渇水対策工事の検討、用水の配分調整		
貯水率の低下が進行し、段階的に水利利用の制限を強化している状況						◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集、対策の調整 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の開催・参加(適宜)および関係機関との情報連絡	情報収集、渇水対策の推進	◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の参加(適宜)および関係機関との情報連絡 ◆自治体情報の確認 ◆水道用水等使用者への節水啓発、衛生管理の強化 ◆浄水場での配水減圧 ◆受水市町等への協力要請、受水制限(水道用水供給) ◆官公庁、大口需要者への節水要請の強化(バルブ制限等) ◆農業用水、工業用水使用者への節水依頼、バルブ調節、ゲート調整、ポンプ運転制限、農業用水での番水実施 ◆自己水源等の活用 ◆減圧給水・計画断水等の検討	◆自治体情報の確認 ◆雨水の利用 ◆再生水の利用 ◆一般家庭・事業所での節水強化	
30% ▽程度	20% ▽程度	30% ▽程度	20% ▽程度			適正な河川管理	◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の参加(適宜)および関係機関との情報連絡 ◆庁舎等における節水 ◆水利使用者への状況説明 ◆営農・農業用水相談窓口の設置、被害防止技術等の周知	◆渇水情報の提供、節水呼びかけ等の強化 ◆節水キャンペーン		渇水対策のさらなる推進
						◆適正な利水補給、河川環境の確認 ◆取水状況の確認				
				貯水率の低下が深刻化している状況						◆気象情報、ダム貯水率等の確認 ◆被害情報の収集、対策の調整 ◆渇水対策本部等の設置(適宜) ◆情報交換会・渇水連絡会の開催・参加(適宜)および関係機関との情報連絡 ◆適正な利水補給、河川環境の確認
▽0%		▽0%		情報発信、啓発	◆計画断水情報の周知 ◆節水呼びかけ等の強化					
				◆ダム等の水源情報の発信						

※このタイムラインは、渇水被害を最小限にとどめるため、各関係機関や住民・事業者等が「大滝ダム貯水率や3ダム(猿谷・大迫・津風呂)の合計貯水率」の状況に応じて行う行動計画(渇水対策の項目とその時期)について、おおよその目安として示したのですが、実際の渇水調整や具体的な対応は、紀の川水系の各支川・ダムの渇水状況等も考慮して渇水連絡会等で決定されます。

※このタイムラインでは、大滝ダム貯水率や3ダム合計貯水率の低下が進行する状況(渇水シナリオ)を設定しており、「渇水の期間」は、既往渇水時(平成6年)の状況をベースに、既往渇水時で水位回復につながった大雨が発生しない場合を想定して算定したおおよその目安です。

※大滝ダム貯水率は、以下の各期間の利水容量(6/16～8/15:3,100万m³、8/16～10/15:1,500万m³、10/16～6/15:7,100万m³)に対する貯水率です。

※このタイムラインでは、ドローダウン期間は対象外とします。また、紀の川水系では、非かんがい期の渇水対応を行った実績が少ないため、非かんがい期の目安とする各ダムの貯水率は設定していませんが、今後、渇水対応タイムラインを試行運用しつつ、各関係機関と調整のうえ、随時見直しを図っていきます。

※このタイムラインは、紀の川渇水連絡会等に基づく関係機関で共有し作成したものです。